

中部国際空港利用促進協議会 理事会

中部国際空港利用促進協議会(代表理事:水野中経連会長、山本名古屋商工会議所会頭)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年度の理事会を6月に書面で開催した。

理事会では、「2019年度事業報告・収支決算」「2020年度事業計画・収支予算」などが原案どおり承認された。

セントレアは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う移動制限の影響により、4月・5月は国際線就航ゼロ、4月の航空旅客数は前年同月比▲94%の64,000人、5月は前年同月比▲97%の32,000人に落ち込むなど、深刻な状況に陥っている。本協議会では、セントレアの就航便や旅客数の回復に向け、効果が期待できる事業を戦略的に実施していくこととしている。

(社会基盤部 和田 耕一郎)

中部圏イノベーション推進機構 第1回定時総会

6月12日(金)、ナゴヤ イノベーターズ ガレージを運営する(一社)中部圏イノベーション推進機構は、第1回定時総会を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止と関係者の健康に配慮し、社員の皆様には事前に委任状を提出いただくよう協力を賜り、Web会議を併用して議事を執り行った。

総会では、「2019年度事業報告および附属明細書」「2019年度の活動の振り返りと2020年度事業



計画書および2020年度収支予算書」を報告するとともに、「2019年度計算書類等(案)」「理事8名選任(案)」について審議し、原案どおり承認された。



定時総会後の第5回理事会では、水野中経連会長が同機構の会長に就任した。就任挨拶で水野会長は、「コロナショックはイノベーション活動を加速させる契機となる。ガレージは設

立以降、スピリッツのある若者による交流の場、熱量ある議論を交わす場、さまざまな提案を行う場を提供してきた。ガレージを縦横無尽に生かし、多様な分野でイノベーションを起こす発火点にしたい。また、中小企業の方々にもイノベーションの重要性を認識してもらい、活動に参加してもらえよう認知度を高めたい」と抱負を述べた。

2019年7月に開業したナゴヤ イノベーターズ ガレージは、今年に入り新型コロナウイルスの影響はあったものの、2019年度の来場者数は15,050人、イベント数は293件と当初目標を上回った。ホームページへのアクセス数も37,222件となり、当初目標比207%を達成している。

2020年度は、起業や新規事業の立ち上げを目指す若者らに専門家が助言を行う「Innovator's Garage Entrepreneurs' Society (IGES)^{アイジェス}」の始動、スタートアップや創業支援の取り組みを紹介し投資や交流を呼び込む「Startup Guide Nagoya」の発行を予定している。

(イノベーション推進部 水田 晴久)

中央日本総合観光機構 会員総会

6月19日(金)、(一社)中央日本総合観光機構(会長:中経連会長)は、2020年度の会員総会を開催した。今回は、議長を務める久和副会長(北陸経済連合会会長)が富山県からWeb参加するなど、

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮をしたうえで、議事を執り行った。

議事では、荻野事務局長が「2019年度事業報告・収支決算」「2020年度事業計画・収支予算」などを説明し、原案どおり承認された。2020年度は、これまで外部に委託していた「訪日外国人の動態データ」などのマーケティングに必要な情報を、独自で継続的に収集する仕組みづくりを主な事業として推進していく。

最後に、新たに就任した理事を代表して水野中経連会長が挨拶し、「今般のコロナ禍により、訪日外国人観光需要をはじめ、観光産業は大きなダメージを受けた。このような中、当機構の役割はますます重要なものとなっている。国内外の局面や構造などの変化をしっかりと踏まえ、マーケティングにもとづいた広域観光戦略を長期・短期の視点に立つて的確かつ機動的に策定したい」と抱負を述べ、会員に向けて引き続きの支援と協力を呼びかけた。



(企画部 山田 昶士)

東三河地域会員懇談会

7月9日(木)、中経連は東三河地域会員懇談会を豊橋市内にて開催し、水野会長、神野副会長(座長)をはじめ22名が参加した。

水野会長の挨拶に続き、事務局が中経連の活動として、2020年度事業計画、中部圏広域での産学官連携、スタートアップ・エコシステム拠点都市、中部圏の景況感の現状(4～6月期)と見通し(10～12月期)、2021年度税制改正要望の取りまとめ



に向けたアンケートについて説明を行った。

その後、東三河地域の取り組みとして、寺嶋豊橋技術科学大学学長より「豊橋技術科学大学の産学官連携」について、小林豊橋商工会議所専務理事より「広域連携による地域づくり～東三河・三遠南信～」について、それぞれご紹介いただき、参加者と意見交換を行った。参加者からの主な発言は以下のとおり。

- 東三河地域は県境を越えた広域連携に熱心に取り組んでいる。その背景や理由を他地域にもアピールしてほしい。
- 豊橋では新型コロナウイルスからの経済再生に、広域連携・官民連携で取り組んでいる。
- 豊橋技術科学大学の産学官連携の取り組みや大学改革、研究戦略が大変参考になった。

また、懇談会後の交流会では、影山湖西市長より、近隣地域との連携や湖西市の活性化策など、地元自治体の県境を越えた取り組み事例についてご紹介いただいた。

(総務部 亀井 勝彦)



東三河地域の取り組みをご紹介いただいた寺嶋氏(上)と小林氏(下)

在日フランス商工会議所中部デスク 開設記念イベント

7月16日(木)、ナゴヤ イノベーターズ ガレージ

にて、在日フランス商工会議所中部デスク開設記念イベントが開催された。同商工会議所会員企業のほか、在日フランス大使館、中部圏の行政機関・企業・団体などが招かれ、中経連からは、水野会長、フランス名誉領事を務める大島副会長、小川専務理事が参加した。

同商工会議所は、今年で設立102年を迎え、海外の商工会議所としては日本最古であり、600を超える会員数は在日欧州商工会議所中最多を誇る。中部デスクは、当地におけるビジネス・コミュニティ拡大のため、東京、大阪、福岡に次ぐ4つ目の拠点として今年2月、名古屋市内に開設されたものである。しかし、これまで新型コロナウイルスの影響により、開設記念イベントの開催を見合わせていた。



アルメル・カイエル氏

イベントでは冒頭、主催者であるアルメル・カイエル会頭が「ものづくりで日本をリードする中部圏とフランスとの長年の連携は、皆様の支援の賜物と感謝している。今後、一層のダイナ

ミズムが見込まれるこの地域に中部デスクを設けることで、より絆を深めていきたい」と挨拶を述べた。

続いて、ローラン・ピック駐日フランス大使が「日仏の今後の繁栄に向けては、国と国との関係性に増して地域との結びつきが重要である。両者のビジネスネットワークのさらなる拡大の架け橋として中部デスクが大いに活躍されることを期待



左端はローラン・ピック氏、左から二人目は在京都フランス総領事のジュール・イルマン氏

する」と祝辞を述べ、乾杯の発声を行った。

その後、参加者は、新型コロナウイルスの影響による互いの国や地域の経済状況や中部圏の観光・食文化に関する話題などで親交を深めた。

(国際部 野村 一樹)

定例記者会見

7月20日(月)、中経連は総合政策会議終了後、水野会長の定例記者会見を行った。

はじめに、水野会長は、新型コロナウイルスの影響について、「景況感が大幅に低下しており、国内の景気回復には時間を要する」と述べた。また、7月10日に愛知県に対して「新型コロナウイルス感染症に関わる対策要望および協力提案」を行ったことを紹介した(本誌15ページ参照)。さらに、中経連としても、コロナショックによる社会・経済的課題解決に加え、ポストコロナ対策として、イノベーションの加速、東京一極集中の是正などを、今後の重要な活動として展開していく考えを示した。



続いて、水野会長は、中経連が、愛知県、名古屋市、名古屋大学、浜松市らとコンソーシアムを組み申請した「スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市」が、7月14日に内閣府に認定された旨を紹介した(本誌5ページ参照)。水野会長は、「コンソーシアムを中部圏の産学官の力を結集する核として、イノベーション・エコシステムを推進・加速させ、その効果を中部圏全体に波及させていきたい」と抱負を語った。また、ナゴヤ イノベーターズガレージが設立から1年を迎えたことに触れ、来場者数が延べ17,000人を超え、順調なスタートを切ったことを紹介した。

(総務部 古田 雄也)